

# 長浜・田辺工業

# 生活の跡 古民家に残す

米原市甲津原に二十九日オープンする宿泊施設「そよも」。築百五十年を超える古民家を改修したのが、長浜市の田辺工業だ。田辺喜範社長は「宿泊施設として住みやすくしながらも、元持ち主の生活の跡を残すことを目指した」と話す。(磯貝元)



数十年にわたり古民家の改修を請け負っていた田辺工業は、まいばら空き家対策研究会から古民家を紹介された。実際に物件を見た上で、宿泊施設としての改修を提案した。古民家の改修には、木材のも

## 元持ち主も納得の改修

この部分を活かしながら朽ちた部分だけ入れ替える技術や、経年により反ったかもいへの対応など、一から建てる新築とは異なる技術が求められる。田辺工業は長年古民家改修に携わった経験と、木材などの仕入れから、設計、施行までを自社で行うことができる強みを活かし、難しい改修を施工した。

目指したのは宿泊施設としての機能と元持ち主の生活の跡を残すことの両立。豪雪地帯の寒さを和らげるため断熱材や窓枠にも力を入れた。一方で元持ち主が生活していた跡を感じてもらうため、餅つきの際にできた梁の傷や、薪を立て掛けるために使用した留め具はそのままだに残した。

完成後、最初にそよもを見せたのは元持ち主の家族ら。「改修してもらったことでみんなが集える場所になった」と喜んでもらったのが印象的だった」と田辺社長は話す。

そよもでは、地域資源を活用した食事や体験を楽しむ農泊事業も予定しており、甲津原の住民との交流会なども開き地域資源の発掘に力を入れている。田辺社長は「地域交流の拠点や移住のきっかけとなるような施設になれば」と力を込めた。



●「そよも」の梁について説明する田辺代表 ●いろいろにくべるまきを立て掛けるために使用されていた留め具。いずれも米原市甲津原で



田辺工業 1947年創業。従業員20人、資本金2000万円。材木の仕入れなどを行う製材業として創業し、現在は不動産業や家の設計、施工も行う。田辺社長は全国古民家再生協会の副理事長を務める。

新 人の 目 発 表 迎 え 一 ぐ に 開 れ 徹 備 準 備 す。 「コ だ め に して して しま した 所 属 選 手